

《 蝻 》

3ス 蝻の道森へ入るにはもう日暮 とうちおとめ  
軽やかな措辞で魅力的。蝻に道にも森にもゆかれない。(くるみ)

4ス 忘れ物取りにきのふへ蝻の道 克憲  
これから蝻の跡を見るたび過去への旅を思うことになるだろう。(三晴)

5ス 蝻の道金釘流の一行詩 くるみ  
取り合わせの妙により、蝻の道の有り様を見事に表現した。(あきを)

4 蝻の道足音が草踏んでゆく ばんだ  
あたりの静けさ、くつきりとある蝻の道。(イネ)

《 号 》

3ス 里山に朝の号砲春まつり とうちおとめ  
浮き立つような春まつりの始まりです。(あさぎ)

7 起きてこぬ三号室の新社員 きさ  
ただの寝坊なんかではない何かが…という怖さ。(千津子)

7ス 蟻穴を出て号外の人の渦 さや  
穴を出た蟻の驚きが伝わってきます。刻の移ろう速さを感じつつ。(あかね雲)

3ス 山吹や正門遠き2号館 臺子  
まだ慣れていない正門までの道。山吹の花が応援してくれています。(しずか)

《 自由 》

2ス 母にもう待たれず桜散りにけり さや  
これからも面影は消えることはない。(すみれ)

1ス コードレス掃除機充電する桜 節子  
何かが満ちてゆく感じを上手くいいました。(雀)